

林 勇気 Yuki Hayashi

すべては遥か彼方に そしてその中間にあるものについての物語

2025年2月4日(火) — 16日(日) 10:00-18:00

豊中市立文化芸術センター 展示室

観覧料：無料 *休館日：2月10日(月) *最終日は17:00まで

主催：豊中市市民ホール等指定管理者・豊中市

すべては遥か彼方に
そしてその中間にあるものについての物語

注目作家がホール施設で表現する
メディアアート展と、市民×作家×
ホールの協働型コミュニティ・プ
ログラムの2つからなる、豊中市
立文化芸術センターの現代アート
事業。ジャンルを超えた創造と、
一人ひとりの表現の場を作り出す
ことを目指しています。

林勇気

Yuki Hayashi

すべては 遙か彼方に そして その中間にある ものについての 物語

関西を拠点に、映像作家として活躍する林勇気。作品には、「メディアアート」の新しい芸術表現が用いられながら、そのモチーフからはどこかしら懐かしさや儚さも感じられます。人の記憶の中につるい、浮遊する、感情・言葉・場所・時間を掬い上げ、作家自身の創造性と感覚により、丁寧に照射しているからでしょうか。

豊中市初出展となる本展では、「メディア（中間にあるもの）」をテーマに、代表作のアップデートに加え、豊中を舞台にした新作に取り組んでいます。人の生活と隣り合いながら掴めない、近くて遠いもの、やってきて過ぎて去っていくもの、現れては消えるもの―作家のまなざしは、光と影として対象を結び、映し出します。

情報伝達の手段や技術を指し、時には媒体・媒介者とも訳される「メディア」。ふたつのものを隔て中立でありつつ、二者に属しあいだを取り持つ両義的存在といえるでしょう。今回、映像としてのメディアは作品の表現手法であり、その本質「中間にあるもの」の表象が新作のテーマとして浮かび上がります。林は、あいだにあるものの物語を、映像の可能性とともに伝えます。

対談

林 勇気 × 小林 公（兵庫県立美術館学芸員）

2025年2月8日（土）14:00-15:00

会場：多目的室

定員：30名 / 先着順・直接会場にお越しください

入場無料

豊中市立文化芸術センター

豊中市立文化芸術センター チケットオフィス

〒561-0802 大阪府豊中市曽根東町3-7-2

TEL=06-6864-5000

受付時間=10:00-19:00

休館日=毎週月曜日（祝日と重なった場合は翌平日）

及び年末年始12月29日から翌年1月3日

阪急宝塚線「曽根」駅下車 東へ約300m（徒歩約5分）

阪急「大阪梅田」駅より約20分

駐車スペースは限られております。ご来館の際には、電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。



林 勇気 | 映像作家

1997年より自身で撮影した写真を切り抜いて組み合わせるような手法で映像制作を始める。以来、国内外の美術館やアートイベントで発表を行う。作品制作には、パフォーマンスを取り入れたり、音楽家とのコラボレーションをしたりと、広がりを見せている。近年の個展では、「君はいつだって世界の入り口を探していた」（クリエイティブセンター大阪、2022年）「景色と映画の向こう側」（イメージフォーラム/東京、2024年）、「灯をみる」（Gallery PARC/京都、2024年）、グループ展に「オーバーハウゼン国際短編映画祭」（オーバーハウゼン、ドイツ2021年）、「テールズアウト」（大阪中之島美術館/大阪、2022年）、「2023年コレクション展 | 虚実のあわい」（兵庫県立美術館/兵庫、2023年）、「特別展 境界をこえる」（徳島県立近代美術館/徳島、2023年）など。

豊中市立文化芸術センター



林 勇気

